

# 平成29年度 当初予算成立

あらかじめ、  
幸せだったらいいな。

幸せ度  
いちばん  
福井県

## 東西南北の交流促進

2月定例会議において、平成29年度当初予算が成立しました。北陸新幹線の敦賀開業や小浜京都ルートの決定、中部縦貫自動車道永平寺大野道路の開通など、高速交通体系の整備が進むことにより、福井県を取り巻く交通環境は大きく変化します。今後、東西南北4つのゲートを開くことにより、福井県は、国内外を問わず、様々な人や情報が行き来する「交流新時代」を迎えます。

今回の当初予算では、既存の人口減少対策にとどまらず、県外や海外にも目を向けた交流新時代の実現を図ることに重点を置くとともに、「福井ふるさと元気宣言」の実現に向け、開催まで1年余りとなった福井あわせ元気国体・福井あわせ元気大会の成功に向けた準備や、福井の未来を担う人材の育成、産業の活性化、農林水産業の振興、地域の医療や福祉の充実などの重要課題に挑戦し、福井県の実力をさらに高める政策を実行する予算としました。

## ① 高速交通体系の整備

### 高速交通体系の整備を加速

北陸新幹線金沢・敦賀間について、平成29年度政府予算案において、事業費1,340億円が盛り込まれました。このうち、県内区間の事業費は、平成28年度の約1.7倍となる871億円を確保。県も負担額として174億円を計上し、福井高柳高架橋、九頭竜川橋りょう、新北陸トンネルなどの工事を促進します。中部縦貫自動車道についても、今年の夏前の永平寺大野道路全線開通に向けた工事を進めています。平成29年度の事業費は、平成28年度の約1.5倍となる113億円、県の負担額として27億円を計上しました。高速交通体系の整備を着実に進めながら、平成42年度末の北海道新幹線札幌開業より早い北陸新幹線全線開業や、平成34年度の北陸新幹線敦賀開業に合わせた中部縦貫自動車道大野油坂道路全線開通を引き続き国に要望します。

また、北陸新幹線や中部縦貫自動車道などの整備により、今後10年程度の間に福井県を取り巻く交通環境が大きく変化します。国内外との交流・交易を拡大していくため、隣接府県と連携した交流・観光プロジェクトを強化するとともに、若狭湾エリアの新たな地域構想と具体的なプロジェクトを検討、交流を促進するための基本戦略となる「高速交通開通アクション・プログラム」を改訂します。



福井を元気にする北陸新幹線



九頭竜川橋りょうの工事

## ② 定住人口、交流人口の拡大

### 都市部の学生を福井へ

都市部の学生が一定期間県内に滞在して、企業での新商品開発やアルバイトを行いながら地域住民との交流を行う活動を支援し、将来の福井への移住につなげる事業を新たに実施します。「経営参画インターン」では、若者の自由な発想に期待する県内企業の新商品企画開発などに参加できます。また、「福井県版ワーキングホリデー」では、観光関連施設などで働きながら、祭りへの参加など地域の人々と交流する機会を設けます。



祭りへの参加(イメージ)

### 福井を第二のふるさとに

生活拠点以外の地域に中長期滞在する「二地域居住」や「ロングステイ」を行う人たちが年々増加しています。こうした中、市町や地域住民と共働して、都市部に住むロングステイ希望者を受け入れる事業を新たに実施。地域住民との交流などを進めることにより、ふるさと福井の活性化につなげます。

### 空の玄関口の利用拡大

福井県の空の玄関口である小松空港のさらなる利用拡大のため、国際線の新たな就航地との定期路線開拓を目指します。県民利用の促進のため、県内団体に対して小松空港国際線就航地の団体との交流にかかる費用を支援するほか、石川県と連携し、両県の認知度を向上させるため香港のメディアを通じて福井県の魅力をPRします。



海外でのPR活動

### 県内企業の海外展開を支援

海外で活躍できる社員の育成や留学生の県内就職を支援し、海外展開を考える企業を後押しします。福井県とつながりの深いアメリカ合衆国フィンドレー市・大学の協力を得て、県内企業の若手社員を派遣し研修を実施。国際ビジネス人材の育成を支援します。また、留学生を採用しようとする企業向けに、留学生との意見交換会・事業説明会を実施するなど、留学生と企業のマッチングを支援します。

### 30歳の成人式

成人式から10年後を契機として若者が自ら企画する交流会の開催を支援。県内外の同級生が再び集まり、交流会を通してふるさと福井について考え、地域の活動に参加するきっかけを作ります。交流会に合わせてUターン相談会や起業相談会を実施し、県外に出た若者の将来的なUターンを促進します。

### 海外クルーズ客船をおもてなし

9月2日と10月14日に、福井県初の海外クルーズ客船として「ダイヤモンド・プリンセス」が敦賀港に寄港します。外国人に福井の魅力を発信することのできるこの機会に、観光・物販ブースの設置や伝統工芸体験、郷土芸能の披露など、敦賀市と連携して福井ならではのおもてなしで歓迎。さらなる寄港につなげます。



大型クルーズ客船「ダイヤモンド・プリンセス」

## ③ 魅力発信の強化

### ポストこしひかりを 全国に誇るブランド米へ

昨年品種が決定し、名称公募に10万件を超える応募が集まったポストこしひかり。平成30年度の本格販売に向けて、より高価格で販売するため、首都圏における販路の確保や情報発信を強化します。



ポストこしひかり「越前291号」

### 福井の幸せを発信

幸福度ランキングにおいて連続して総合1位を獲得したことを受け、福井県の幸福度の高さを県内外に発信します。首都圏では、福井の幸せを感じることができるラジオ番組を毎月放送。福井にゆかりのある有名人がゲストとして出演します。県内では、県民から寄せられた幸せにつながる行事や食の習慣などを掲載した「福井あわせ歳時記(仮称)」を作成・配布します。

### 他府県との連携

若狭さとうみハイウェイ(舞鶴若狭自動車道)と京都縦貫自動車道からなる、嶺南地域と京都、滋賀を周遊する高速交通ネットワークを活用するため、三府県が連携して新たに観光促進協議会を設立。各府県に共通する日本遺産や鉄道遺産をメインテーマとした広域観光誘客を進めます。

### 歴史資源を有効活用

平成29年は福井の先人、泰澄大師が白山を開山して1300年となることから、泰澄ゆかりの地をめぐるバスターの実施、歴史博物館における企画展の開催、県内各地から見える白山眺望ポイントの整備などを行います。県外においても、石川県、岐阜県と協力してイベントなどに出展します。また、幕末明治150年を迎える平成30年に向けて、「幕末明治福井150年博(仮称)」の内容を具体化。会場計画や展示品の制作、広報活動を行います。さらに、地域の歴史資源を活用した、市町の観光誘客も支援します。

### 「御食国・和食の祭典」を開催

朝廷に食材を納め、御食国と呼ばれた福井県(若狭)と、兵庫県(淡路)、三重県(伊勢志摩)、食材が集まる都であった京都府が連携し、「御食国・和食の祭典」を開催。各府県のブランド力を合わせた相乗効果によって、福井の魅力を全国に発信します。第1回目となる平成29年度の開催地は兵庫県洲本市。平成30年度以降は各府県において順次開催を予定しています。

### 水月湖「年縞」の活用

地質学的年代測定「ものさし」となっている水月湖年縞。その年縞の研究や教育普及活動を行う年縞研究展示施設について、平成30年度の開催に向け引き続き整備を進めます。また、県民の機運を盛り上げるため、年縞研究者による講演会や、展示施設建設現場の見学会、水月湖上での学習会を開催するほか、立命館大学による中学生・高校生を対象としたサマースクールを開催します。



年縞研究展示施設(イメージ)

## 福井ふるさと元気宣言の実現

### 農林水産業の振興

#### 食料産業のパワーアップ

作付面積の拡大や中山間地域での生産拡大を図っている県産のそばを「世界三大そば」として県内外に発信し、産地競争力の強化を図ります。県産そばの新たな魅力を発信するため、県立大学と連携して天日干しや雪室貯蔵を活用した「プレミアムブランドそば」を開発。さらに、麵以外でも県産そば粉の需要を開拓するため、若い女性に人気のメニュー「ガレット」として売り出します。また、中山間地域の農地を活用したブドウの生産を推進。新たな地域特産物として、県産ブドウを使用したふくいワインの振興を図ります。平成29年度は、醸造施設を整備する民間事業者を支援。さらに、将来県内でワイナリーを展開する人材を育てるため、ワインの醸造技術やブドウの栽培技術を習得できるプログラムを作成します。



ワイナリー(イメージ)

#### 水産学術産業拠点を整備

水産資源の新たな生産・加工技術の研究や、国際的な視野を持つ人材の育成などを行う拠点構想の実現に向け、これまで福井県であまり養殖されてこなかった高級魚「マハタ」や、需要が高い「トラウトサーモン」の種苗生産施設などを整備。さらなる水産業の発展と、地域経済の活性化につなげます。



高級魚「マハタ」

#### 林業ビジネスを拡大

総合グリーンセンターの研修館などを改修し、林業ビジネスの拠点として、林業・木材産業にかかわる人材の育成や、木材、きのこ、山菜などの林産物の流通・販売促進を図ります。また、県内で生産される木材の利用を拡大するため、都市圏での大規模展示会への出展や大手ハウスメーカーとの商談会を実施。デザイン性の高い内装材や不燃木材など付加価値の高い製品を売り込むことで、新たな市場を開拓します。

## 福井の未来を担う人材の育成

### 教育総合研究所を開設

現在、旧春江工業高校に移転整備中の教育研究所が、「教育博物館」などの新たな機能を備えて、「福井県教育総合研究所」として4月にオープンします。教育博物館では、県民や学校から収集した昔の教科書などの教育資料の展示、福井ゆかりの教育者の紹介、企画展や講座を実施し、全国トップクラスの学力・体力を支える福井の教育を全国に発信します。また、高度な実験機器をそろえた「サイエンスラボ」を設置。理科教育の充実・強化を図るため、遠隔授業・研修システムによる実験動画を配信するほか、高校生が実際に機器を使って実験を行う講座を開催します。



教育博物館(イメージ)

### 学校業務を効率化

教員の負担を軽減し学校業務の効率化を図るため、部活動における指導体制の見直しを実施します。教員に代わって指導・引率ができる退職教員や、専門的な技術指導ができる地域人材を配置します。さらに、児童・生徒の成績、欠欠、保健管理などの事務処理を効率化するため、県立学校、公立小中学校に共通のシステムを導入します。

## 産業の活性化

### ものづくりを支える

工業技術センターに宇宙産業とロボット研究開発の拠点を整備し、県内企業の新たな事業展開につなげます。宇宙産業については、小型衛星の製造に必要な電波暗室や熱真空試験機などを整備します。これにより、県民衛星プロジェクトを通じて衛星製造技術を習得した企業にとって、国内外における衛星製造を受注しやすい環境が整います。ロボット研究開発分野においては、人との共同作業が可能なロボットや、身体への負担を軽減するスーツ型ロボットなどを設置し、生産現場におけるロボットの導入や、医療・介護分野などのロボット開発などにつなげます。



衛星製造の様子(写真提供:東京大学)

### 工芸の魅力を発信

北陸の工芸の魅力を世界に発信するため、文化庁と北陸三県が連携し、平成29年度から5年間、各県において「国際工芸サミット(仮称)」を開催します。メイン会場は北陸三県持ち回りとし、平成31年度の福井開催に向けて、伝統工芸産地とデザイナーとの連携による新商品開発や展示・商談会を実施し、販路拡大につなげます。また、平成27年度から越前焼研究の第一人者である故水野九右衛門氏の自宅と資料館を越前陶芸村に移築整備しており、今年の秋には「越前古窯博物館」が完成します。水野氏の越前焼コレクション展示や越前焼の調査研究を行い、越前焼の歴史的・文化的価値を高めるとともに、ブランド力を強化します。さらに、博物館の開館に合わせて、県内外の茶道愛好家が集まる大茶会「天心茶会(仮称)」を開催します。



昨年開催された伝統的工芸品の全国大会の様子